



第1回京都府南部特別支援学級（視覚障害）等担任向け研修会 報告

日 時 平成30年6月26日（火）14:00~17:00
場 所 京都府スーパーサポートセンター 視覚サークルーム
テ ー マ 「見えにくさのある児童生徒につけたい力と支援（自立活動と合理的配慮）」
指導助言 府専門家チーム 森上 和 氏
山城教育局 指導主事 森 環 氏

今年度も、京都府南部地域の小中学校に在籍する見えにくさのある児童生徒を担当する先生方を対象に研修会を行いました。当日は、小中学校から6名、盲学校から4名の先生が参加してくださいました。

協議・交流では、自立活動の視点、合理的配慮の視点に分けて、御自身の実践を付箋に書き出してもらった後、参加者全員で意見を交流し、それぞれの視点をカテゴリー化しました。参加された先生方から活発に意見を出していただくことができ、日々の教育活動の中で悩みながら実践をされている内容を共有したり、新たな視点に気づいたりすることができました。

また、指導助言から、見えにくさのある児童生徒に自分から発信できる力をつけることの大切さやそのための環境づくりとして周囲の児童生徒や校内の職員への理解を広げていくことの大切さを学ばせていただきました。



【受講者の感想】

1つのテーマに参加者の先生方が取り組まれている実践を聞くことができ参考になりました。森上先生の話はとても参考になり、子どもの将来を見据えた支援を心掛けないと、と痛感しました。

目の前にいる子どもの姿、日々自分がしていることを思い浮かべて、いろいろ振り返りができた研修でした。能動的な内容でとても勉強になりました。

自分が悩んでいることは、他の先生方も悩んでいることなのだと知って、少し安心しました。ただ、健康管理の視点など、自分自身がもっていなかった視点なども知ることができて、とても勉強になりました。「受け身」の児童をどのように「受け身」でなくしていくかは、今後の大きな課題だと感じました。

時間が足りないと思う程、盛りだくさんで、有意義な研修会でした。目先の事しか見えていないので、将来の姿や経験をもっと聞かせてもらいたいと思いました。

指導助言には、これまでの実践、経験が詰まったお話で大変興味深かったです。子ども達の指導にあたって私達ですら、視覚障害者の方の大人になられたイメージをもちづらいことは多分にあるので、成人することを見通しての支援のあり方について考えるのはとても大切なことだと感じました。